

牧師所感： 有望な人々を蝕む麻薬社会

筆者は 1983 年～88 年迄 アメリカの大学（プリンストン）で、留学した経験を持つ。筆者が アメリカに滞在中も、ピューリタン（キリスト者）が築き上げたキリスト精神が、社会の隅々まで残っている 健全な社会であると思われた。

だが、健全な社会であると共に、堕落した 暗黒の社会と共存する社会であることにも 気付いていた。ところで アメリカ社会を蝕む 大きな要因は、
、
、
、
、
ドラッグ つまり アメリカが禁じている麻薬が、社会の隅々まで蔓延していることであった。当時のアメリカ政府は 麻薬対策には厳しかった。

さて 筆者がアメリカから帰任して、日本で牧師として 牧会してきた年月が早や 36 年に至るが、今日のアメリカ社会は、麻薬対策においては、使用を ほぼ認めている。特に若年層、子供に至るまで、ある種の麻薬は容認されている。

さて 2024 年 1 月 23 日発行の ニュースウイーク紙を読んだ。その記事の中に筆者の注意を引いた記事が 目に留まった。「スター俳優を殺した 韓国社会の不寛容」と言うタイトルだった。

記事「2001 年、テレビドラマに初出演したときから、イ・ソンギュンは 甘い声と親しみやすい笑顔で 観客の心をつかんだ。 — 中略 — 韓国の格差社会を痛烈に風刺し 非英語の映画として 初めてアカデミー賞 作品賞に輝いた『パラサイト 半地下の家族』（19 年）で、国際的名聲を獲得。21 年に公開されたアップル TV プラスの SF ドラマ『Dr. ブレイン』では、国際エミー賞の 主演男優賞にノミネートされた。そのイが 昨年 12 月 27 日、ソウル市内に止められた車の中で 遺体となって発見された。享年 48。死因は自殺とみられる。生前 彼は違法薬物を使用した容疑で、警察の取り調べを受けていた。訃報には世界中の映画ファンが衝撃を受け、誰もが 偉大な才能の喪失を嘆いた」。大変長く引用した。だが 記事は尚も続いている。「韓国では 尹大統領が主導する『麻薬との戦争』の最新の犠牲者であることに気付いただろう」と。

さて 筆者も 彼の死を悼む者である。

最後に 私共 キリスト者は、世界中で 有望な将来性ある人材が 麻薬によって滅びることのないように、心を尽くして祈りましょう。